

G3m上の不動化TLCK-キモトリプシン

Cat. No. NATE-1770

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 α -キモトリプシンは、疎水性アミノ酸（L-チロシン、L-フェニルアラニン、L-トリプトファン）のカルボキシル基でペプチド、アミド、エステルを優先的に加水分解しますが、ロイシル、メチオニル、アスパラギニル、グルタミル残基の結合も含まれます。G3m: デキストランに固定化されたCRカラムあたり25 μ gの α -キモトリプシン。1. CRカラムあたり4ユニット固定化。このCRカラムは、アプリケーションごとに少なくとも100 μ gのチューブリンを切断します; 5 μ g/分のBSAをSDSなしで切断しますが、0.1% SDSの存在下では少なくとも45 μ g/分のBSAを切断します。Nr. 5 保存バッファー: 50 mM Tris/HCl, pH 7.5 Nr. 5 反 $\square$ バッファー: 50 mM Tris/HCl, pH 7.5; 0.1% SDSの存在下でも活性 Nr. 6 洗淨バッファー: 50 mM Tris/HCl, 1 M NaCl, pH 7.5

別名 EC 3. 4. 21. 1; α -キモトリプシン; キモトリプシン A および B; アルファ-キマールオフ; アバザイム; キマール; キモテスト; エンゼオン; キマール; キモトレース; アルファ-キマール; アルファ-キモトリプシン A; アルファ-キモトリプシン; キモトリプシン

製品情報

由来 牛脾臓

EC番号 EC 3. 4. 21. 1

プロトコル 1. 配達されたバッファーを（各2 ml以上）無菌の二重蒸留水で希釈します。1回のアプリケーションには以下が必要です: 1 mlの10x反 $\square$ バッファーと9 mlの二重蒸留水 2 mlの5x洗淨バッファーと8 mlの二重蒸留水 1 mlの10x保存バッファーと9 mlの二重蒸留水 基質は反 $\square$ バッファーに入れておく必要があります。2. CRカラムを10 mlの反 $\square$ バッファーで平衡化します。10 mlの反 $\square$ バッファーをシリンジに入れ、重力で反 $\square$ バッファーをカラムを通して上部フィルターまで流します。バッファーの流れが非常に $\square$ い場合は、シリンジで $\square$ 力をかけてください。3. 反 $\square$ バッファー中の基質溶液をロードします。小さな体積 (< 70 μ l): CRカラムをベンチトップ遠心分離機で5秒間回転させます (2000 rpmで十分です)。基質溶液がマトリックス材料に入るのを待ちます。大きな体積: 基質溶液をカラムを通して流します。流量: 最大70 μ l/分 基質をカラム内に約1分間室温で保持します。基質を再度カラムに適用するか、長時間インキュベートすることで、より高い回転率が得られます。4. 製品溶液を溶出します。小さな体積 (< 70 μ l): カラムから製品を遠心分離します。大きな体積: 基質をカラムを通して流し、残留溶液をマトリックスから遠心分離します。注意: 700ダルトン未満の分子は7 mlの反 $\square$ バッファーで溶出する必要があります。カラムが乾燥しても害はありません。5. カラムを10 mlの洗淨バッファーで洗淨します。6. カラムを10 mlの保存バッファーで平衡化します。カラムは4°Cで保管します。CRカラムを凍結させないでください!

保管・発送情報

保存方法 4 °C